



**新型 Samsung Galaxy の超音波指紋認証システムが
世界初の FIDO バイオメトリック認定を取得
(国際版の日本語訳)**

Samsung の新型「ディスプレイ内蔵」式超音波指紋認証システムが、国際的に認知された生体認証性能規格およびプレゼンテーション攻撃検知 (PAD) を満たすものとして、*FIDO* アライアンスによる認定を取得

2019 年 2 月 20 日、カリフォルニア州マウンテンビュー - [FIDO アライアンス](#)は本日、Samsung Model S10 および S10 +スマートフォンが、FIDO アライアンスが新たに策定したバイオメトリクス部品認定プログラムの認定を取得した最初の製品となったことを発表しました。この認定により、新型のディスプレイ内蔵式指紋認証システムが、ユーザー検証およびプレゼンテーション（または「なりすまし」）攻撃の検出に関する業界標準を満たしていることが検証されます。

FIDO アライアンスのエグゼクティブディレクターであるブレット・マクドウェルは、「モバイル機器が非常に機密性の高い情報を保存し、重要な取引を行うための主要な手段となるにつれて、FIDO アライアンス内の業界リーダーがバイオメトリック認定部品の有効性を評価するための標準ベースの手段が必要だと判断しました。それが、私たちが最近バイオメトリック部品認定プログラムを開始した理由です。FIDO アライアンスのバイオメトリック部品認定を取得した Samsung Galaxy デバイスの新型ラインアップを最初に市場に投入することで、Samsung は、Galaxy S10 と S10 +をバイオメトリック対応デバイスの業界ベストプラクティスとして位置付け、同時にこの重要なベンチマークを市場に提供する我々のプログラムの必要性が検証されます」と述べています。

これまでは、生体認証ベンダーは各顧客に対し性能を繰り返し証明する必要があり、FIDO アライアンスは、こういった市場のギャップを埋めるために最初のバイOMETリック認定プログラムを策定しました。生体認証システムの性能試験を実施し一度認定を受けるだけで、ベンダーは大幅に時間とコストの削減が可能となり、顧客に対しては指紋、虹彩、顔および／または音声認識を利用する生体認証システムを信頼する標準化された方法を提供することができます。このプログラムは、FIDO アライアンスが認めた独立の認定機関（以下：認定ラボ）を活用し、バイOMETリック部品の生体認証性能およびプレゼンテーション攻撃検知（PAD）² について生体認証性能国際規格¹を満たしていることを認定します。

サムスン電子の IT&モバイル通信事業部 SVP であるモバイルセキュリティテクノロジーグループの責任者を務める Henry Jong-Hyeon Lee は、「当社のデバイスにおける顧客のデータおよびプライバシーの保護は Samsung にとって最も重要です。だからこそ、私たちは FIDO バイOMETリック部品認定プログラムに臨みました。当社は、生体認証部品の性能を評価するための強力なベースラインを業界に提供するプログラムを完成し、認定を取得した最初のデバイスメーカーとなったことを大変嬉しく思います」と述べています。

iBeta のケビン・ウィルソン博士は、「生体認証が企業や政府関連の市場から主流の家電市場に拡大するにつれて、FIDO アライアンスのバイOMETリック部品認定プログラムが業界の重要なギャップを埋めていきます。このプログラムの下でバイOMETリック認定評価を実施した最初の認定ラボとなったことを大変嬉しく思います」と述べています。

FIDO バイOMETリック認証プログラムの詳細

このバイOMETリック部品認定プログラムは、認証器を構成するすべての生体認証部品に対してオープンです。認定を取得したベンダーは、FIDO アライアンスおよび認定ラボによって管理される明確な試験に合格したことを証明するバイOMETリック部品認定書を受領します。プログラムへの参加に関心のあるバイOMETリック技術のサプライヤは、下記 URL にアクセスしプログラムに参加することができます。

<https://fidoalliance.org/certification/biometric-component-certification/>

FIDO アライアンスについて

「高速なオンライン ID 認証」を意味する FIDO（Fast IDentity Online）アライアンス

www.fidoalliance.org は、セキュリティと利便性の両立をめざすため、2012 年 7 月に設立されたグローバルな非営利団体です。**堅牢な認証**技術に相互運用性が確保されていない状況を改善し、ユーザーが多くの ID とパスワードを覚えなければならないという煩わしさを解消することを目的としています。FIDO アライアンスは、認証におけるパスワード依存を軽減するために、オープンで拡張性と相互運用性のあるシンプルで堅牢な

「FIDO 認証」を標準化することで、オンラインサービスの本質に変革をもたらします。FIDO 認証はオンラインサービスの利用時に、堅牢でプライバシーが確保された便利な認証を提供します。

FIDO アライアンス PR 担当者

FIDO アライアンス

アジア・パシフィック マーケット開発マネジャー

土屋 敦裕

info@fidoalliance.org

注釈

- 1 ISO 規格: ISO/IEC 19795; ISO/IEC 30107
- 2 PAD (プレゼンテーション攻撃検知) 例: 生体検知/偽装攻撃検知など